

資料 1

# 第 9 次森町総合計画

## (基本構想 諮問案)

平成 2 9 年 1 月



## <目 次>

第1章 まちの将来像 ..... 1

第2章 まちづくりの基本目標..... 3

## 第1章 まちの将来像

私たちの森町は、静岡県西部地区、遠州のほぼ中央部、日本のほぼ中心に位置し、当町面積の7割を超える森林と清流を有する美しい自然環境、恵まれた食、脈々と受け継がれてきた伝統文化を背景に、古都・京都を模した美しいまちづくりなどから、「遠州の小京都」を標榜してきました。

さらには、国土軸である新東名高速道路の開通により、広域交通拠点となるインターチェンジや掛川と結ばれる天竜浜名湖鉄道沿線の5駅を町内に有する、交通の要衝として、利便性の高い環境が備えられてきています。

また、この10年間のまちづくりとして、平成18年度に策定された第8次森町総合計画では、「ええら森町！～みんながチカラの郷づくり 古きをいかして新しきを創る～」を将来像に掲げ、将来像の実現に向けた5つの目指すべき方針に基づき、各施策・事業の推進を図ってきたところです。

この第8次総合計画の策定から10年が経過する中、人口減少・少子高齢化の進行、社会経済のグローバル化、東日本大震災を契機とした防災やエネルギー問題への意識の高まり、ライフスタイルや価値観の変化による町民ニーズの多様化など、まちを取り巻く環境も変化してきています。

このような状況の中、町民一人ひとりの豊かな暮らしの実現と、多様な交流を育み、誰もが明るい未来を描くことができる環境を整えていくため、まちの「強み」(①「遠州の小京都」といわれる景観、歴史・文化資源、多彩で高品質な農作物、②新東名高速道路の森掛川インターチェンジ、遠州森町スマートインターチェンジ設置による産業拠点形成及び交流人口拡大の要素、③高いお達者度)を伸ばしながら、「選択と集中」により、これからの時代にあったまちの姿を創造し、未来への目標を町民と行政が共有して、着実にその歩みを進めていくことが求められます。

また、全国的な人口減少が課題となっている今、自治体(森町)も選択される対象のひとつと考える必要があります。多くの人に「行ってみたい」、「住みたい」と選んでもらえるようなまちにしていける必要があります。

そこで、新しい総合計画が目指すまちの理想像として、

### ● 「人の輪」～外部との交流～

- ・ まちの活力維持のため、町内のみならず、外部とのさらなる交流による「人の輪」が生まれる
- ・ 森町に住む人、森町で事業を行う人、行政、そして、町外の森町ファンといった、森町にかかわるすべての人の「人の輪」がつながる
- ・ これらが生み出すパワー、活力がまちづくりに最大限活かされ、さらに「人の輪」が広がっていく

● 「対話」～信頼の構築～

- ・行政と町民の信頼関係をつなぎ、様々な場面での「対話」によって、町民が声を出し、自らも参加する、きめ細やかなまちづくりが進む
- ・森町に住まい、学び、働く、様々な立場の人々、さらには個性を持った各地域との「対話」を続けながら、さらに深い信頼関係が生まれていく

● 「調和」～人と自然～

- ・“森”は深い山々に抱かれている。この山々を源とする水は、田畑を潤し、人々の営みを助け、花を咲かせ、実を実らせ、あらゆる生命を育む
- ・山々には、あらゆる生命を育み、人々の心を癒す不思議な力がある
- ・“森”は天地の恵みで、住む人も訪れる人も心癒される、やさしさのあるまちになる
- ・人と人、地域と地域、人と自然、古いものと新しいものが、この“森”のなかに「調和」し、さらに新たな魅力や活力が生まれていく

このようなまちづくりにおける3つの理想像を踏まえ、森町が目指す「まちの将来像」を

「住む人も訪れる人も「心和らぐ<sup>やわ</sup>森<sup>もりまち</sup>」

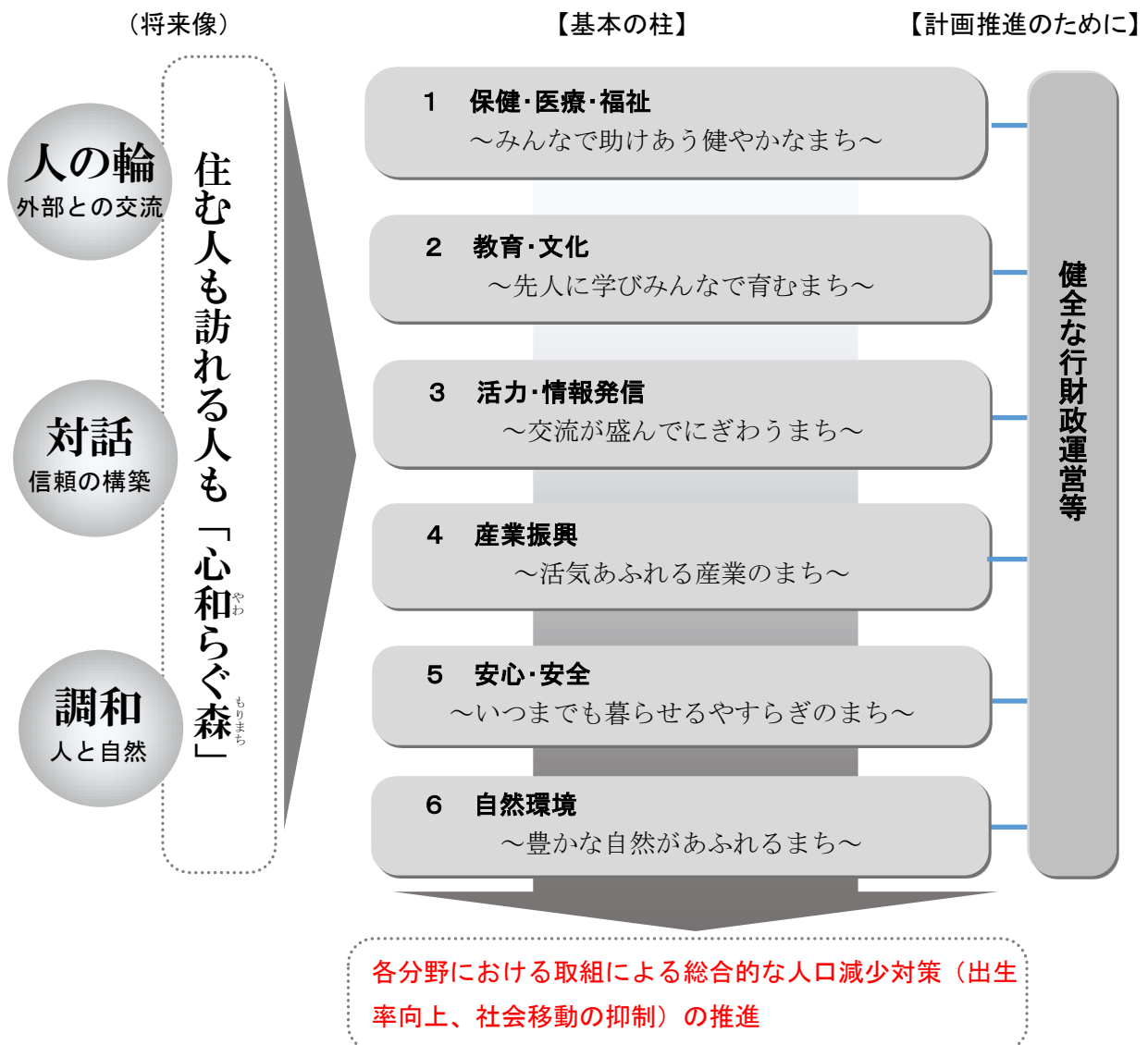
と定めます。将来像は、町民や行政がまちづくりに取り組むにあたって、目指すまちの姿であるとともに、森町を全国にアピールしていくものでもあります。



## 第2章 まちづくりの基本目標

まちの将来像の実現及び人口減少社会への対応のため、各分野で取り組むまちづくりの基本的な方向性を示すため、下図の体系のとおり、分野ごとのまちづくり方針となる基本の柱と、各柱ごとの取り組みの実現のために必要な事項を定めます。

### ■まちづくりの基本目標設定概念図



## 基本の柱 1 保健・医療・福祉

### ～みんなで助けあう健やかなまち～

- ・年代の違いや障がいの有無にとらわれることなく、すべての町民が、地域の支えあいやふれあいなどを通して、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる社会環境を整えます。
- ・森町で子供が生まれ、そして健やかに育ち、森町に住み続けられるようにします。
- ・お達者度上位、元気な高齢者が多くいるということで、医療費の削減に努めるとともに高齢者等が社会で活躍できる環境づくりを進めます。
- ・高齢者が元気に暮らせる町であることを町内外に積極的にアピールするとともに、1世帯当たり人員数が県内上位で、3世代の同居率も高いなど、子育てしやすい家族形態をふまえ、各世代に寄り添った支援策を構築していきます。

#### (施策の基本方向)

- いつまでも「いきいき」過ごせるまちをつくる
- 「お達者」で暮らせるまちをつくる
- 子育て・子育てしやすいまちをつくる

## 基本の柱 2 教育・文化

### ～先人に学びみんなで育むまち～

- ・地域固有の資源や文化の価値・魅力を再認識するとともに、地域への愛着を深め、行政・町民が一体となって「ひと」を育てていきます。
- ・多世代居住の家族形態、元気な高齢者が多く住まう地域特性をいかし、学校・家庭・地域が、それぞれの役割を果たしつつ、協力する中で、地域ぐるみの人づくりを進めます。
- ・「森」と「水」に育まれた、地域のもつ貴重な歴史・文化の保護と継承に努めていきます。また、こうした歴史・文化資源を背景に、まちや地域への誇りや愛着を高めていくとともに、世代を問わず、すべての人が身近に感じることができるよう学びの場や環境づくりに努めていきます。

#### (施策の基本方向)

- 「ひと」と「ひと」が育みあうまちをつくる
- 歴史に学び多様な文化を継ぐまちをつくる

## 基本の柱3 活力・情報発信

### ～交流が盛んでにぎわうまち～

- ・様々な手段を活用して、森町の潜在的な資源・魅力を見直し、積極的に情報発信することで、新しい人の流れをつくることによる人々の交流を活性化します。
- ・新東名高速道路の開通による交通アクセスの向上を最大限にいかす中で、多くの人が森町を訪れる出会いと交流の機会を創出するとともに、訪れた人が安心して快適に滞在できるようなまちづくりを進めます。
- ・女性や若い世代の視点を大切にし、さらなる森町への関心度を高めていきながら、様々な人々に「選んでもらえる」ような、まちづくりを進めます。

#### (施策の基本方向)

- 調和のとれた居心地のよいまちをつくる
- 町の魅力や情報を広く効果的に発信するまちをつくる
- 地域の宝・資源を最大限にいかしたまちをつくる

## 基本の柱4 産業振興

### ～活気あふれる産業のまち～

- ・先人が築き、地域に根付かせてきた農業・林業・商業・工業の各産業をさらに発展させるため、経営の安定化や人材の育成、相談体制の充実等に努めるとともに、高付加価値化や新技術の導入など創意工夫に満ちた取組を支援していきます。
- ・新東名高速道路の開通に伴う新たな連携・交流に資するまちの拠点形成を促進するため、森掛川インターチェンジ周辺の基盤整備や新たな企業の進出を誘導していきます。

#### (施策の基本方向)

- 活力が持続できるまちをつくる



## 基本の柱5 安心・安全

～いつまでも暮らせるやすらぎのまち～

- ・自然災害への備えや、日常生活を脅かす事故や犯罪などの防止に努めます。
- ・地域の美化や安心・安全の確保、構築に向けて、行政とともに、地域の住民相互の支え合いを促進します。
- ・予想される南海トラフ巨大地震などの自然災害から町民の生命・財産を守るため、森町地域防災計画に基づき、ハード及びソフトの両面からの対策を引き続き実施していきます。
- ・静岡県と県内市町で推進している内陸のフロンティア構想（内陸のフロンティアを拓く取組）において、森町は地形的に津波の心配はない内陸部に位置することで、地震対策などにおける災害に強いまちをアピールしていきます。

### （施策の基本方向）

- 安全・快適に暮らせるまちをつくる
- 災害に強い、地域防災力の高いまちをつくる
- コミュニティ豊かな地域活動が活発なまちをつくる

## 基本の柱6 自然環境

～豊かな自然があふれるまち～

- ・住む人や訪れる人に対して、やすらぎと明日への活力を与えてくれる豊かで美しい自然環境の保全に努め、森町の貴重な財産として守っていきます。
- ・地球環境保全の視点にたった、環境にやさしいまちづくりを継続するとともに、まち（市街地）と緑のバランスを保ち、うるおいある豊かな生活環境を整えます。

### （施策の基本方向）

- 緑豊かな自然あふれるまちをつくる
- 自然環境と共存するまちをつくる

## 計画推進のために

第9次総合計画（基本構想、基本計画）の推進のため、以下の方策（取り組みや仕組みづくり）を設定します。

### 1）健全な行財政運営の推進

全般的な行財政運営にあたって、民間企業等での経営手法を参考とし、より効果の高い施策・事業の展開を図るため、施策・事業の評価（Check）と施策・事業の見直し（Action）により、施策・事業実施後の事後評価を行い、各施策・事業に関する新設、拡充、縮小、廃止などの方向性を定めるものとします。

町内産業の活性化を通じた税収増を図っていくとともに、引き続き町税の徴収率向上や受益者負担を踏まえた使用料・手数料などの適正化、町有財産の有効活用などにより、安定した財源の確保に努めます。また、大規模災害の発生等、「想定外」に際しての行政運営継続のあり方を検討します。

組織の合理化・適正化を進め、職員の自発的な提案が町政に反映され、やりがいをもって仕事に取り組める仕組みづくりや町民ニーズに迅速に対応できる組織編成に努めます。さらに、地域の実情に応じた自主的な政策立案や施策を展開するよう、職員の能力向上に向けた研修等の充実を図ります。

民間のもつ能力や資本の活用促進や、町民参加による開かれた行政運営を図るため、情報の共有化や参加しやすい環境づくりを進めるとともに、町内会や各種団体、地域などとの機能分担や連携を強化していきます。

#### （取組の方向）

行財政運営システムの改革

成果重視の行財政運営

第4次森町行財政改革大綱の策定

第3次行財政改革実施計画の策定

財政の健全化

森町業務継続計画（BCP）の策定

組織の改革と職員能力の向上

公共施設マネジメントの推進

## 2) 広域連携・交流の推進

消防・衛生・医療・福祉等に関わる分野で展開している周辺市町との共同事業について、今後も連携を強化し、役割分担と協力関係を構築していきます。

住民サービスの向上を図るため、公共施設の相互利用や公共サービスの共通化などをさらに発展・充実させ、効率的で効果的な広域行政を推進します。

周辺市町との住民相互の交流と連携を促進するとともに、住民主体の広域的なまちづくりへの支援を行います。

森町を訪れる人との出会いと交流の機会を創出するとともに、町の特徴をいかした産業、歴史・文化資源やスポーツなどを通じて他市町の住民との交流を促進します。また、友好町である北海道森町との交流や情報交換を引き続き進めていきます。

また、「新東名高速道路の開通による利便性の向上」や「遠州の小京都のまちづくり」をいかした広域連携の推進を図るとともに、移住・定住等の交流促進を図ります。

### (取組の方向)

周辺自治体や圏域を超えた広域連携の推進

新たな広域連携の推進

国内外の地域間交流の推進

## 3) 協働のまちづくりの推進

町民ニーズが多様化、個別化する中で、より豊かな生活を築いていくためには、町内会等の地縁系団体、NPO等の住民活動団体、行政等が目的意識を共有して、対等の関係で協働するという視点がより必要となってきました、

第8次森町総合計画においても、協働のまちづくりを推進してきましたが、今後も引き続き、協働に関する情報の提供等、様々な環境整備に努めていくとともに、より積極的に取組を進める必要があります。

協働による取組をより一層推進することにより、多様な主体が新しい公共の担い手として、より一体となったまちづくりを推進していきます。

現在、活動をしている協働まちづくり推進事業実施団体やボランティア団体に対し、継続して活動を展開していくための団体支援や育成を実施していきます。

### (取組の方向)

協働に関する情報の提供等の充実

協働まちづくり推進事業の創意工夫

協働型行政体制の構築

## 4) 情報通信技術（I C T）の活用推進

人口減少や少子高齢社会が進行し、経済成長等もこれまで以上の上昇は見込みにくい中、開発が進む情報通信技術（I C T）に着目し、種々の地域活動等の活性化や課題の解決といった、より生活に身近な行政サービスの展開へのI C Tのさらなる活用を進めていきます。

また、多様化する町民ニーズに対応するため、時代の進歩に対応したI C Tを積極的に利活用して、効果的な情報発信をします。

併せて、情報を安全、迅速、確実に提供できる手段を構築するとともに、I C Tを利活用したまちづくりを目指します。

### （取組の方向）

I C T利活用のあり方の検討、推進

I C T利活用のための基盤整備

地域産学官民（企業・教育機関・県・市町・各種関係団体等）の連携・協働

